

様 式 Z - 7

## 平成 2 7 年度科学研究費助成事業 実績報告書 ( 研究実績報告書 )

1. 機関番号 

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(B) (海外学術調査) 4. 研究期間 平成 2 6 年度 ~ 平成 2 9 年度
5. 課題番号 

2	6	3	0	1	0	0	1
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 東南アジア伝統衣服製作技術体系の解明と伝承教育最適化のためのプログラム開発

## 7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 3 2 2 4 3 4	シモダ アツコ 下田 敦子	人間生活文化研究所	助手

## 8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
4 0 1 5 5 6 8 5	ナカガワ マサノリ 中川 正宣	東京工業大学・大学院社会理工学研究科	教授
4 0 3 0 7 1 1 1	アヤベ マサオ 綾部 真雄	首都大学東京・人文科学研究科	教授
5 0 1 1 4 0 4 6	オオサワ セイジ 大澤 清二	人間生活文化研究所	所長

## 9. 研究実績の概要

研究期間全体のフローは 現地調査準備・調査員研修 各民族の現存する衣服製作の技術要素調査(1次調査)を行い現状を把握 技術要素の項目の抽出 以下、3つの研究過程 (a,b,c) に分かれる。

a 衣服製作技術の保存: a1 を深化させた精密な技術要素調査(2次調査)を行い a2 前のa1で用いる現地用語集の編纂 a3 a1の映像等を保存し図録、用語集を作製。

b 技術要素による民族グループ分類: b1技術要素の存在確認データ b2クラスター分析して民族を技術要素の共通性で分類する。

c 技術習得プログラムの開発: c1技術習得状況調査(3次調査) c2データセット作成 c3個々の技術要素の習得水準の計量 c4 b2の結果から民族グループ別に因子分析し共通因子の抽出 c5 項目反応理論を適用し解析する。技術要素の学習順序を難易度で最適化し c6年齢変数によりc5を調整し学習最適年齢を求める c7技術習得プログラム(冊子)の開発 c8学校実習授業での検証 c9まとめと報告。

27年度は、技術習得プログラムの開発に向けた地機経験者を対象とした技術習得状況調査(c1)を実施した。また、a技術の保存の為の用語集と映像の整理編集を継続して行い、4月には調査実施の為の研修用「調査員マニュアル」を完成させた。各研究グループでは専門の調査員と補助員を増員し研修会を実施した。技術習得調査c1(3次調査)を開始した。前年度の成果 技術要素の項目を経験者がどの程度習得しているかの技術水準を調査し、a、bについても進捗状況を検討。収集したデータを現地で整理して入力し、データセットを準備し(c2) 個々の技術要素の習得水準を計量した(c3)。

## 10. キーワード

- (1) 無文字社会 (2) 伝統衣服製作技術 (3) 身体技術の伝承 (4) 伝承方法の最適化
- (5) 項目反応理論 (6) (7) (8)

(注) ・印刷に当たっては、A 4 判 (縦長) ・両面印刷すること。

( 1 / 5 )

## 11. 現在までの進捗状況

(区分)(2) おおむね順調に進展している。

(理由)

現地の調査受け入れ体制が良好であったため、おおむね順調に遂行することができた。とくに、研究者による現地学術調査が極めて困難なミャンマー連邦共和国においては、現地政府が本研究による現地調査を継続して公式に許可し、支援してくれているので、平成27年度はおおむね順調に実施することができた。

## 12. 今後の研究の推進方策 等

(今後の推進方策)

28年度は技術習得プログラムの開発に向けて、研究の中軸でもあるc5技術要素の難易度の計量と学習順序と年齢の最適化を明らかにしていく。その為の方策として、4月～5月：データセットc2を民族グループごとに因子分析を施し、結果の吟味検討(c4)。6月～8月：c4に続いて因子ごと(技術領域ごと)、民族グループごとに項目反応理論を適用し、結果を吟味する。国内研究者による検討会で最適モデルを検討。9月～10月：年齢を考慮した技術要素の順次性を最適化する(c6)。11月～3月：c7技術習得プログラムの開発。科学的データ解析手法によって衣服製作の技術要素を再構成、最適化し、これに調査員らが2年半をかけて収集した技術要素の記録映像等を合わせて、伝承教育の為の現地語による民族グループ別の、冊子「技術習得プログラム」を開発する。同時に、開発したプログラム検証のための実習授業の準備を始める。講師(当該民族の衣服製作技術の熟達者)と単元ごとの指導方法について綿密に打合せをする。協力校における、学習者人数分の用具の製作、原材料の調達等を現地協力者に依頼する。正課カリキュラムの時間配分を学校関係者らと検討し、実習室を準備しておく。

(次年度使用額が生じた理由と使用計画)

(理由)

現地の協力機関(ミャンマー)の都合により、研究計画の一部に変更が生じ、併せて掛かる経費の支出計画に変更が生じた。

(使用計画)

現地の協力機関(ミャンマー)の都合により、研究計画の一部に変更が生じたものの、協力機関は、当該の研究計画を平成28年度に実施することを約束してくれている。これに掛かる経費は次年度支出する計画である。

## 13. 研究発表(平成27年度の研究成果)

(雑誌論文) 計(1)件/うち査読付論文 計(1)件/うち国際共著論文 計(1)件/うちオープンアクセス 計(1)件

著者名		論文標題				
下田敦子、タンナイン、大澤清二		児童期からの首輪装着は成熟後の形態と体構にどのような影響を及ぼすのか カヤン人女性の高径データの分析から				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著	
人間生活文化研究	有	25	2015	272-286	該当する	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)						
<a href="http://doi.org/10.9748/hcs.2015.272">http://doi.org/10.9748/hcs.2015.272</a>						
オープンアクセス						
オープンアクセスとしている(また、その予定である)						

(学会発表) 計(4)件/うち招待講演 計(0)件/うち国際学会 計(0)件

発表者名		発表標題	
下田敦子、大澤清二、タンナイン、ジョネイ、ネーミョールイン		生涯にわたる首輪装着がカヤン女性の頸長をどのように変えるか - 幼児期から80歳までのカヤン女性の長径データの分析から -	
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本発育発達学会第14回大会	2016年03月05日 ~ 2016年03月06日	神戸大学	

発表者名		発表標題	
大澤清二、下田敦子、中西純、アチャヤウシャ、ピニタライ、タンナイン、ブラクルータワットチャイサンカピタツ、		人類発達史から見た子どもの身体発育発達 - 狩猟採集民から現代の子どもへ	
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本発育発達学会第14回大会	2016年03月05日 ~ 2016年03月06日	神戸大学	

発表者名	発表標題	
アチャウシャ、ピニタライ、ティムシナアラティ、パッタライニシル、中西純、下田敦子、大澤清二	ネパールにおけるカースト・民族別の幼児の生活技術と発達過程	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本発育発達学会第14回大会	2016年03月05日～ 2016年03月06日	神戸大学

発表者名	発表標題	
中西純、アチャウシャ、下田敦子、大澤清二	ベジタリアンの食物摂取内容と発育に関する調査 - ネパール連邦民主共和国の上・中位カーストを対象として -	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本発育発達学会第14回大会	2016年03月05日～ 2016年03月06日	神戸大学

〔図書〕計(2)件

著者名	出版社		
下田敦子	家政教育社		
書名	発行年	総ページ数	
カヤン女性の身体変工・装飾と価値体系 ミャンマー最南部に於ける2013-2014年生活実態調査より	2   0   1   5	103	

著者名	出版社		
下田敦子	家政教育社		
書名	発行年	総ページ数	
無文字社会における染織技術の伝承 タイ北部山岳民族カレン人集落における16年間フィールドサーベイの記録から	2   0   1   5	228	

## 14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

(出願) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

(取得) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

## 15. 科研費を使用して開催した国際研究集会

(国際研究集会) 計(0)件

国際研究集会名	開催年月日	開催場所

## 16. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

(1) 国際共同研究: -

## 17. 備考

--